

# カレイ類幼魚採集用ソリネットの開発

山本徳義・池本見介・倉長亮二（鳥取県水産試験場）

## 目的

カレイ類，特にソウハチの資源管理を行うためには漁獲加入前の資源量の把握が重要と思われるが，現行のトロール調査ではカレイ類幼魚の定量採集は困難である．そこで，カレイ類幼魚の定量採集を目的として，写真1に示すようなソリネットを試作した．



写真1 ソリネット全景

## 漁具構造

同様の調査を行っていた西海区水産研究所（以下「西水研」）のソリネット

を参考に作成し，網の全長は約12.1mで，9節の網地を使用した（写真1）．さらに西水研仕様にはないものとして，幅20cmのソリを設置し，また，甲板への取り込み用としてフレーム左舷側頭頂部からロープを設置した．



写真2 ソリネットグランド部分

## 試験操業

網なり等漁具の確認のため，本県西部の美保湾内水深20mの海域において試験操業を行った．この時，水中ビデオカメラにより曳網中の漁具の撮影を行った（写真2）．その結果，この網ではボビンはグランド後方にあり，そのため，グランドは海底に対し，やや浮き気味になっていた．しかし，この状態は，ワープ長等を代えても安定しており，定量採集を行うにはむしろ好都合のように思われる．

さらに，9月には，日御碕北西海域水深131m～203mにおいて，実際の調査を想定して試験操業を行った．その結果，ソウハチの漁獲は少なかったもののミギ

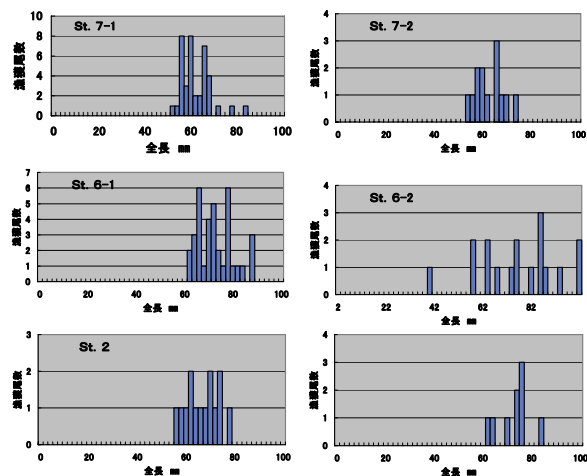


図1 ミギガレイの調査点別全長組成

ガレイについては、全長 5 cm 前後の個体が多く漁獲されていることから、想定している全長 5 cm 前後のソウハチ幼魚も定量可能と思われた。

#### 今後の課題

今回作成したソリネットの幅は西水研の使用したものを基本としたため、本船のスリップウェイの幅より大きく、船上への取り込みが難しく、もう少し小型の物を作成すべきであった。また、前チェーンを設けることにより漁獲効率が上がるかについても今後検討したい。